

七北田川特集

七北田川は泉ヶ岳を源として、泉区・宮城野区を経て太平洋にそそぐ延長約42キロメートルの2級河川ですが、ブナ林の上流域から蒲生干潟がある河口まで、多様な生物を育てています。また、農業用水を供給し流域を潤すとともに、仙台市泉区と塩釜市の水道水となる上水道の供給源ともなっています。

今回の特集では七北田川に関連して、①魚の回遊のこと、②川に架かる橋及び道路のこと、③河川敷の芋煮会について報告します。

特集1 魚が回遊しやすい川に！

魚の回遊というとカツオやマグロを思い浮かべる方が多いかと思いますが、淡水魚でもサケが産卵のため川に遡上するように、いろんな魚がなんらかの形で河川を回遊しています。ここでは、サケの遡上とそれを妨げている河川横断施設について考えます。

近年、「七北田川の水質を守る会」の方々が、サケの回帰する川にしようと、サケの採卵や稚魚の生育に取り組んだことで、実際に毎年サケが七北田川に帰ってくるようになりました。

しかし、七北田川には堰やダムなど河川横断施設が11箇所あり、最も下流に設置されているのが、中野堰です。この中野堰は、河口から8.4キロメートル上流にある、仙台市が維持管理する可動堰ですが、魚道もなく、落差が2メートルもあるため、サケがこの堰を乗り越えることは極めて困難です。

中野堰に魚道があれば、サケは、河口から22.2キロメートル上流の明神堰、さらには明神堰から4.6キロメートルも上流、根白石の今宮堰の手前まで遡上することも不可能ではありません。秋には、多くの市民が七北田川を遡上するサケを目にすることができます。子供たちもサケを通して水環境や生命の大切さを身近に学ぶことができます。

河川横断施設の設置状況

施設名	落差	魚道
中野堰	2.0 m	なし
宝堰	1.8 m	あり
薄ヶ沢堰	2.2 m	あり
明神堰	0.8 m	なし
今宮堰	2.1 m	なし
新堰	1.8 m	あり

(注) 新堰の上流は省略します。



中野堰



特集2 整備が待たれる荒巻大和町線

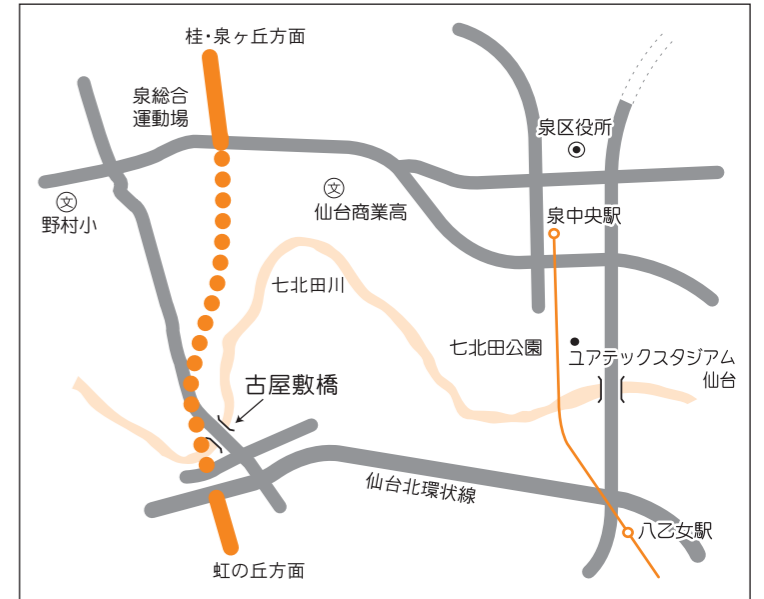
七北田公園から約2キロメートル上流の七北田川に古屋敷橋が架かっています。古屋敷橋は、都市計画道路荒巻大和町線の未整備区間である野村～加茂区間に位置しています。

この橋は40年前に整備されていることから、老朽化が進んでおり、耐震強度などが懸念されています。また、狭隘なため片側交互通行となっており、朝夕には渋滞を引き起こし、歩行者や自転車の通行には危険を伴う状況にあります。

このような状況を放置しておくことは大変問題であり、新たな橋梁の整備を含め、都市計画道路の整備を急ぐ必要があります。



古屋敷橋



特集3 快適な芋煮会スポットに！

七北田公園に隣接する七北田川の河川敷は、人気の芋煮会スポットになっています。芋煮会のシーズンだけでなく、休日には芋煮やバーベキューを楽しむ人たちが賑わっています。

しかし、現状では快適な環境とは言えません。河川敷を七北田公園と一体的に整備することによって、水と緑の大きな空間ができ、これまで以上に市民の憩いの場として快適な芋煮会スポットになります。

県(河川行政)と市(公園行政)の縄張問題や行政の認識不足など、まだまだハードルは高いものがありますが、一体的な整備を継続して要望していきます。



七北田川河川敷

郵便はがき

料金受取人払

泉支店
承認

112

差出有効期間
平成24年
10月14日まで
<切手不要>

9 8 1 3 1 9 0

斎藤のりお
事務所
行
仙台市泉区泉中央3-27-10 (受取人)

※よろしければご記入ください。

お名前	
ご住所	
電話番号	()